

幼児が喜び歌ふ歌

四〇

葛原しげる

幼児が喜び歌ふ歌、それを作る氣になつたのは明治四十年頃からで、曲をつけて發表しはじめたのは四十四年のこと、國定教科書練習雜誌として「小學生」といふ定價六錢の雜誌を創刊して何號目かに、「兎と狸」を小松耕輔氏の曲を得て掲げたのに初まる。それが曲の面白さによつて非常に好評を博し、甚だ長い事ながら、今上陛下が御幼少の頃、まだ、皇孫殿下でははしました頃だつたので、高輪御殿の御廊下などを、

ビヨン ビヨコ ビヨン やつ

ビヨン ビヨコ ビヨン

ビヨン ビヨコ ビヨン はつ

ビヨン ビヨコ ビヨン

と、はね／＼御歌ひ遊ばして、誠に御満足げであるといふ事を、洩れ承はつて、勿體ないやらうれしいやらで、大に元氣づけられ、以下、每號新作してはいろ／＼の作曲者の新曲を得て發表しつゝけた。のち、「幼年世界」や「少年世界」に轉任してからも止めないで、約五十曲を二年間に新作した。その多くの作曲は、右小松氏の他に梁田貞氏に依頼しつゞけた因縁からさうした兒童雜誌の他に、單行本として、兒童唱歌集を兩氏と著作する

事になつたのが、大正三年の秋であつたかと思ふ以來、毎週一回の會見をつゞけて、十數年、現在に及んでゐる。

その間に、大正七八年頃からは、所謂童謡が盛んになり洪水の勢を以て、全國的に普及されて、實に華やかな童謡界になつたのであつたが、あくまで地味にあくまで靜かに、コードモの爲に、コードモ向にとのみ考へて、のろ／＼ながら創作をつゞけて、「大正幼年唱歌」百二十曲は、大正七年に完結したが、續篇としての「大正少年唱歌」は、小松氏の渡歐不在中の三年餘の停滯もあるけれど、作歌上、また作曲上、論や疑や苦しみを爲くて、實に、その歩みや遅々、「大正——」といひながら、その最後の第十二集を刊行したのは、昭和四年の暮であつたのである。

その間に、社會の表面に非常に花々しく現はれてゐた童謡は、下火になつたといはれる有様にな

つて來たが、實は、社會の各階級にまで童謡が行き渡つたから、目立たなくなつたので、兒童のあるところ、童謡と共に、童謡が下火になるべきものでは、毛頭、ない。もし、有るならば、利に敏に、機を見るに速い似而非童謡詩人や、その雜誌などの動き方が下火になつたので童謡そのものは少しも、下火どころか、衰へて來てはゐない。ラデオに、レコードに、如何に多くの童謡が街頭に出てゐるかを見るがよい。どここの放送局の子供時間にも、何會社のレコード新譜にでも、必らず毎月、多くの童謡が、役立ちつゝあるではないか。とまれ、童謡は行き渡つたものである。しかし私共の「大正幼年唱歌」が大正四年八月に第一、二集を出し、年末に第三集、大正五年三月に第四集を出した頃は、どこにも、誰も、こんな厄介な仕事ををして、幼兒の世界を、より面白く、また、より美しくしようといふ仲間は見當らなかつたし、

幼稚園などの實際家も、大して、私共の仕事に注意もして下さらなかつたらしい。しかし、私共三人は、つゞけた。出版者も、よく我慢して、出版をつゞけた、大正七年一月に第十二集を出した頃には、意外にも、第一集は、かなりの版を重ねてゐたのであるが、途中で出版元でも、氣がついてみれば一冊十曲で、十三錢の定價では損になつてゐるといふので、何度かの協議の末、やつと二錢の値上をして十五錢にしたなどは、のち、童謡勃興時代の、五曲で一圓八十錢の美しい本の出版された事などと考へ合して、ウンの様なホントである。更に、追々よく賣れる様になつた事に驚いた出版元は、出版費を精算して、更に、賣れ、ば賣れるだけ損になつてゐるといふので、大英斷で、二十錢にした。大正十三年には二十五錢にした。それでも、ある友人は、私共三人の會合の席に來て、

「十曲入つてゐて、二十五錢の一冊の出版をするのに、毎週會合しつゞけて一ヶ年もかゝつてゐるなんて、よほど、ばかだよ」

と、感心したやうな、あきれて悔つた様な事といつて歸つたが、ほんとに、私共は、「又他の人々からあまりに、商賣氣がない」といはれて、

「どうもさうらしいね」

と笑ひ合つたものゝ、やはりそれで、それは、すんで、相かはらず、二十五錢の本を、出しつゞけて、一年一冊位の平均で、後半の「大正少年唱歌」を、とも角、まとめたのである。

さすがに、嬉しくもあり、又、多年の計畫を遂行した後の氣のゆるみも手傳つて、さびしくもあり、毎週一回の會合には、實に、楽しみでもあつたので、十數年昔の豫定では、

幼稚園から小學の低學年向に、「大正幼年唱歌」を提供し、

小學校の各學年別に二十曲づゝ、六年生までの百二十曲を『大正少年唱歌』として提供してしまつたら、次には、女學校向の新歌曲を創作する事にしてゐたのを、急に方向を戻して、又もや、幼兒向のものを、時代の進歩におくれない内容にしまして、十數年間の多少の經驗によつて、もつと實際の役に立つものを創作して『昭和幼年唱歌』『昭和少年唱歌』として公刊しようといふ事にした。これを、出版者とも熟儀の上、最も平易な伴奏付として公にする事にしたことが、前の二百四十曲とは違つてゐる。その關係上、一冊に十曲は納められない上、定價も、二十五錢以上になる見込であるが、何としても、あくまでコードモ本位に、すぐ幼兒の爲に役に立つ歌曲にしたいといふので、まづ、私は、作歌中である。

就ては 本誌の讀者の中、

かういふ内容の幼兒唱歌がほしい

とか、

かういふ題のを教へて見たい

とかの御希望があらば、早速、それをお知らせ下さい。何とかして、その御希望に副ふ様に、新作して見たいものと、實は、勇み立つてゐますから現に、東京女子高等師範學校附屬幼稚園のち子さん方の口から生れた多くの名句の中を、倉橋、堀兩教授が選んで、それに又同じち子さん方が、畫をかゝれたのが、フレール館から、カルタとして發賣されてゐる。それを見て、今更の様に驚いた私共は、その「いろはカルタ」の文句四十幾種の中から、

イモ ガ コロガル

ロバ ガ ニゲル

ハチ ガ サス

ニンジン タベル ウサギサン

トンネル ハ クライ

チカテツドウ ハ トンネルバカリ

ワクノボリ ハ オモシロイ

ヨロヒ ヲ キタイ

その他十種ばかりを作歌したり、まづ作曲したりしてゐる。かういふ素晴らしい題目を、どうして、私共大人が、生み出す事が出来ようか。これらは、全く、天來の詩人たる幼児の口からこそ、生れる絶好の詩であり、詩題なのである。これらに接した私共は、驚喜した。同時に、幼児の前にたゞきのめされた様に感じた。頭は上らないのである。

かくて、私共は、今、まづ、これらを、作歌し作曲しようとしてゐる。

かくの如き名詩題は、全國の幼稚園のお子さん方の間に、生れてゐるに相違ない事を信じます。それをも、どうぞ、すぐ書さつて、送つて下さつたら、實はひとり、私共のみの喜ではないので

あります。前掲の御所望の題目と共に、お子さん方の間に生れます名句も、御うつしとり下さい。お送り下さい。私共は、一生懸命に、それに、又私共の解釋を加へて、歌ふ歌幼兒が喜び歌ふ歌にして、幼稚園關係の皆様御批評を乞ひたいと楽しんでゐるのです。(東京市本郷區西片町十番地)

チカテツドウ ハ トンネル
バカリ

葛原しげる

ドコマデ イツテモ

ハシツテモ

デンシヤ ハ デントウ

ツケタママ

チカテツドウ ハ トンネル バカリ

ドノ テイシヤバ モ

テイシヤバ モ

ミンナ デントウ

ツケタママ

チカフツドウ ハ トンネルバカリ